

「スポーツ・健康まちづくり」 優良自治体表彰2023

スポーツ庁参事官（地域振興担当）

「森林・林業日本一の町」における「クップ」を活用した交流の促進！

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

- クップを通じ、町の内外を問わず、世代間、異業種間、自治体間等の「交流」を図り、笑顔と笑声にあふれる町を目指す。
- △ クップの「聖地」としての情報発信により、町の認知度と郷土愛を高める。
- 森林・林業日本一の町を「象徴」するゲームとしてのクップの理解とPRに努め、林業及び環境問題への意識啓発に結び付ける。



<PRポイント>

- ・2008年から「毎年」開催している「クップ・ジャパン・オープン in 住田町」の規模を拡大し、交流人口の増加を目指す。
- ・将来はクップ「ワールドカップ」を開催し、国際交流を図る。
- ・「クップの町」としての「シビック・プライド」を惹起する。

住田町PRのキャラクター
木炭の妖精「すみっこ」だよ。



<概要> 計画期間：～令和9年3月31日

<現状・課題>

- 人口減少、少子高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響により、交流機会が減少している。
交流人口 目標：150,000人 現状：(R4) 58,852人 町総合計画より
- △ 林業や町づくりに関連する認知度が低く、町民の町に対する誇りと愛着が足りない。
クップの町民認知度 目標：100%
- 町の「基幹産業」としての林業への理解が浸透せず、自然環境等の環境問題に対する関心も薄い。
町の自然環境を良いと感じる町民の割合 目標：80% 現状 (R4) :78.1% 町総合計画より

<総合的な取組内容>



- 「普及」：子ども会、高齢者教室、企業、マスコミへの働きかけ 認知率100%！
- 「交流」：既に交流のある全国の自治体、林野庁、一般社団法人日本クップ協会、都道府県クップ協会に加え、新たな企業や団体へのPRによる 関係人口の増加！外国人実習生との交流により、地元企業の受け入れ促進！

「森林・林業・木材産業」：クップをきっかけとした、森林環境問題や町の林業及び木材産業への理解力の増幅、新技術を活用した林業振興への理解！

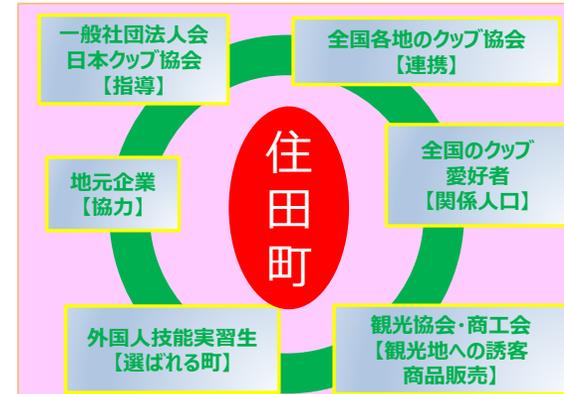


「波及効果」：観光協会等との連携により、特産品、土産品の販売促進及び観光地（種山ヶ原・滝観洞）への誘客！町東部の五葉山の檜（ヒノキ）から加工される火縄を使用した「火縄銃鉄砲隊」を紹介！



オール木造の住田町役場

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



クップコート

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：住田町教育委員会
- 地方スポーツ推進計画：第10次住田町教育振興基本計画
- 地方版総合戦略：住田町総合計画
- 地域スポーツコミッション：なし

【問合せ先・電話番号】

住田町教育委員会 生涯学習係
TEL 0192-46-3863

【フォローアップ欄】 令和6年度以降における計画の進捗状況

<目標分野> ※該当するものに全て印 ✓ <目標内容>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病予防 ✓
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換 ✓

いしのまきスポーツコミッションの運営を支援し、本市の特色あるスポーツ資源等を活用した大会・イベントや合宿等の受入体制を整えることで、交流人口の増加と地域経済の活性化を図る。また、屋内・屋外施設やサイクリングコースなど、スポーツを気軽に楽しめる環境づくりの推進し、生活習慣病予防、健康寿命の延伸を目指す。

合宿受入人数(R5)50人→(R7)350人 スポーツイベント参加者数(R5)5,000人→(R7)7,000人 市民運動実施率(R5)35%→(R7)45%

<PRポイント>

- ① 震災遺構や復興祈念公園を有しており、**復興・震災伝承×スポーツ**など特色あるスポーツや、海の幸・山の幸に恵まれた地を活かした**食×スポーツ**など様々な事業展開の可能性を持っている。
- ② **剣道、柔道、空手**などの武道が盛んなまちであり、さらに"弓聖"阿波研造氏（1880年～1939年）の出身地でもあることから、「**武道**」を活かした**まちづくり**を展開する。
- ③ **多様な分野の団体や企業**などのステークホルダーが**一体となってスポーツを活かしたまちづくりを進める**。

<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

- ・複数の大規模イベントの開催やマリンスポーツなどを楽しめる環境は整っているが、宿泊施設の整備や観光産業が対応しきれていないことから、地域資源を活かしてきていない。
- ・東京2020大会のホストタウン等で築いたノウハウを受け継ぐ組織が無いため、スポーツ合宿の誘致が進んでいない。
- ・スポーツ実施率が全国平均を下回っていることに伴い、健康寿命などの健康関連が県及び全国平均以下の傾向にある。

<総合的な取組内容>

スポーツを活かした新しいまちづくりを定着させて、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現を目指すため、13の団体が立ち上がりスポーツコミッションを設立⇒「**いしのまきスポーツコミッション**」【令和5年3月設立】

イベント・大会開催



合宿誘致



武道ツーリズム



健康増進事業



交流人口の拡大・地域への経済的効果

地域活性化・地域への社会的効果

【フォローアップ欄】令和6年度以降における計画の進捗状況

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

いしのまきスポーツコミッション



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：市民生活部スポーツ振興課
- 地方スポーツ推進計画：石巻市スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：第2次石巻市総合計画
- 地域スポーツコミッション：いしのまきスポーツコミッション（2023年3月23日設立）

【問合せ先・電話番号】

宮城県石巻市民生活部スポーツ振興課
電話：0225-95-1111



<目標分野> ※該当するものに全て印

- ◎ ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ◎ ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ◎ ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

1. スポーツ大会等の誘致による交流人口の拡大、スポーツ資源を活用したビジネス創出による**地域経済の活性化**
2. アランマーレ選手等と交流し、アランマーレを応援する機会の創出による、ホームタウンとしての**シビックプライドの向上**
3. スポーツに親しみやすい環境づくり及び運動機会の創出による**市民の健康増進**

【数値目標】 ◆観光施設入込数 R4 237.5万人 → R9 350万人 ◆酒田市に住み続けたいと思う人の割合 R3 79.9% → R9 82.0%以上 ◆成人の運動実施率 R4 52.4% → R9 58.0%

<PRポイント>

アランマーレと酒田市民がともに活躍するまち

女子バレーボールチーム「アランマーレ」の**公式試合観戦**に加え、図書館を活用したパブリックビューイング等で**応援機運の醸成**を図るほか、スポーツ大会等で必要となる**スポーツボランティアの育成**を図る

いつでも・どこでも・だれでも楽しめるユニバーサルスポーツの普及

「アランマーレ」の活躍でスポーツに興味を持った市民が気軽に親しめるスポーツとして、モルック、ポッチャ等の**ユニバーサルスポーツの普及**を図るとともに、モルックの**全国大会及び世界大会の誘致**を目指す

<概要> 計画期間：～令和10年3月31日

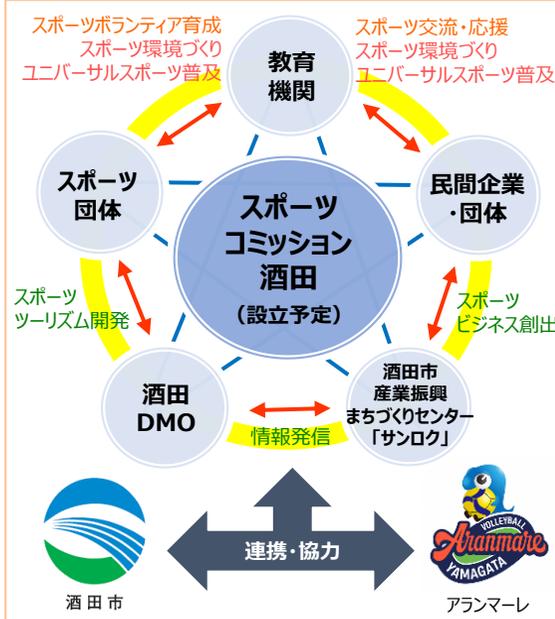
現状・課題

●今後も人口減少が見込まれており、**新たな視点での交流人口の拡大や、新ビジネスの創出などによる地域活性化**が必要

●ホームタウンとして活動する「アランマーレ」をはじめとする**スポーツ資源を酒田市の魅力として最大限に活用**できていない

●各種スポーツイベントの参加者が固定化し、**スポーツ実施率が低い年齢層やスポーツ無関心層へのアプローチ**が必要

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



総合的な取組内容

地域経済の活性化

1. スポーツを活用した交流拡大・ビジネス創出

- スポーツツーリズムコンテンツの開発
- 酒田市への大会・イベント誘致
- スポーツビジネスの創出
- 情報発信の強化



鳥海山・飛鳥ジオパーク、アウトドアスポーツ、美酒美食を活用したスポーツツーリズムの推進

シビックプライドの向上

2. アランマーレ選手等と交流しアランマーレを応援する機会の創出

- 公共施設・民間施設を活用したアランマーレ選手との交流、バレーボール公式試合の**パブリックビューイング**応援
- **スポーツボランティア**の育成



駅前交流拠点施設ミライニ（市立中央図書館）
図書館を活用したアランマーレ公式試合パブリックビューイング▲

市民の健康増進

3. スポーツに親しみやすい環境づくりと運動機会の創出

- アランマーレ選手と子育て中の親子との**運動交流**
- 公共施設・民間施設を活用した**スポーツ体験**、ライフステージに合わせた**健康づくり**
- モルック、ポッチャなどの**ユニバーサルスポーツ**の普及

図書館を活用したモルック体験会▶

スポーツコミッション設立

スポーツ・観光・産業・教育等各団体及び酒田市とのスムーズな情報共有や連携による事業実施の実現

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：教育委員会スポーツ振興課
- 地方スポーツ推進計画：酒田市スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：酒田市総合計画（後期計画）
- 地域スポーツコミッション：令和8年度設立予定（スポーツコミッション酒田（仮称））

【問合せ先・電話番号】

酒田市 企画部 企画調整課
0234-26-5704





<目標分野> ※該当するものに全て印

- ✓ スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ✓ スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ✓ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

スポーツとデジタルを掛け合わせ、関係・交流・流入人口の増加に向けた取り組みを推進

- ソフト事業の開発：8件（令和5年度～令和7年度）
- ソフト事業への参加者数：3,520人（令和5年度～令和7年度累積）
- スマートパーク（仮称）利用者数：4,920人（令和7年度）

<PRポイント>

- 官民連携により、トップアスリートを指導するトレーナーと共同でスポーツ科学に基づいたソフト事業を開発
- データの可視化から分析・改善、遠隔によるオンライン指導、バーチャル体験等デジタルを活用した住民のウェルビーイング向上や、地域のジュニアアスリートの競技力向上を加速化
- データ連携基盤を通じた他自治体とのサービスの相互利用

<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

- ① 全年代におけるスポーツ・健康づくりの参加機会が減少傾向＝体力低下、フレイル増加の懸念
- ② 官民協働や稼ぐ力の不足、旗振り役である推進事業体の不在
- ③ 既存施設の役割がセクション化しており賑わいの規模が限定的

<総合的な取組内容>

① ウェルビーイング向上を実現させるソフト事業の開発

体力・運動能力向上	タレント発掘事業	スポーツを活用した英語教育
ヘルスケア	ジュニアアスリート活動支援	デジタル地域通貨と体験の運動

② スポーツコミッションの設立

（仮称）
矢吹スポーツコミッション

③ スポーツコミッションとハード整備による相乗効果

新設	既存公共施設
 マルチフィールド	 矢吹町複合施設KOKOTTO
 クラブハウス機能+ジム	 未来くるやぶさ

④ 効果

① 賑わい創出

② データ連携基盤を通じたサービスの相互利用

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：教育委員会生涯学習課
- 地方スポーツ推進計画：なし
- 地方版総合戦略：第2期矢吹町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：なし（令和6年度設立予定）

【フォローアップ欄】令和6年度以降における計画の進捗状況

【問合せ先・電話番号】

教育委員会生涯学習課 TEL 0248-21-9112
企画・デジタル推進課 TEL 0248-21-9110

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

東京2020大会では、本市出身のプロゴルファー**星野 陸也選手、畑岡 奈紗選手**が出場！！
本大会を契機として、これまで以上に市民がゴルフを身近に感じる環境作りを目指すとともに、市内ゴルフ場と連携し、台湾を中心とした海外からのゴルフ場利用者を促進！「**ゴルフのまち かさま**」の普及・振興を図る。

<PRポイント>

【市内ゴルフ場や関係団体と連携した以下の取組を実施】

- ① 市民がゴルフを身近に感じる環境づくりとして、**ゴルフ未経験者がゴルフ場へ足を運ぶ仕組み作り**
- ② 子ども達を対象とした「**プロゴルファーとの交流**」、「**スナッグゴルフ大会**」の開催！
※令和5年7月に開催されたスナッグゴルフ全国大会には、市内小学校5校（23校参加）が出場し、全校トップ10入り！！
- ③ **スナッグゴルフを通じた台湾小学生との交流**や**ゴルフ場を活用したインバウンド促進**

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



<概要> 計画期間：～令和9年3月31日

<現状・課題>

- ① スポーツが得意な子どもだけでなく、スポーツに関心のない子どもがスポーツに取組むきっかけが必要。
- ② 2018年に笠間台湾交流事務所を台北市に開設。インバウンド再開を契機に、ゴルフを通じた国際交流促進が必要。
- ③ 市民の運動習慣化促進、健康寿命の延伸を図るため、運動する環境や情報の提供が必要。

<総合的な取組内容>

- ・プロゴルフツアー時にプロゴルファーと子ども達と交流創出、「スポーツ&フードフェス」開催
- ・小学生を対象とした「笠間市長杯スナッグゴルフ大会」を毎年実施
- ・45歳以上の市民を対象とした「健康維持増進のためのゴルフスクール」実施



課外授業として、プロゴルフツアー見学



ゴルフスクール

- ・台湾へ訪問し、現地小学生へスナッグゴルフの普及活動を実施
- ・普及活動実施後、笠間市へ招待！！市内小学生と交流を実施



<スナッグゴルフ (SNAG GOLF) >
2001年に2人の米国プロゴルファーによって開発されたスポーツ。ゴルフと比較して、子どもや初心者でもボールを簡単に打つことができ、場所を選ばず安全にプレーできる簡易版ゴルフ。



笠間市長杯スナッグゴルフ大会

【フォローアップ欄】令和6年度以降における計画の進捗状況

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：笠間市教育委員会 教育部 生涯学習課 スポーツ振興室
- 地方スポーツ推進計画：笠間市スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：笠間市ひと・まち・もの創生推進計画
- 地域スポーツコミッション：一般社団法人笠間スポーツコミッション

【問合せ先・電話番号】

茨城県 笠間市教育委員会 教育部 生涯学習課
スポーツ振興室 TEL: 0296-77-1101

“移住者”を呼び込む！“全天候型”アーバンスポーツパークを核とした茨城県境町のまちづくり ～オリンピックレガシーの継承～ ⑥茨城県境町



<目標分野> ※該当するものに全て印

- ☑ ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ☑ ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ☑ ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容> アーバンスポーツパークを活用した持続可能な交流人口拡大・健康まちづくり等“地方創生”の実現！

- ①【交流人口の拡大】 交流人口：約70万人（令和元年）→ 約200万人（令和6年）
- ②【移住定住の促進】 社会増減数：40人（令和元年）→ 300人（累積、令和2年～令和6年）
- ③【健康促進】 アーバンスポーツパーク2nd 延べ利用者数：約4万人（累計、令和6年度～8年度）

<PRポイント>

- ①【東京2020五輪会場を移設し全天候化！】～ハード整備の充実～
東京五輪でBMXフリースタイル・パークの会場となった施設を移設して、雨の日でも使用できるよう**全天候化**で整備。
オリンピックレガシーを継承するとともに、夏の**熱中症対策**としても効果的。
- ②【国際大会を誘致可能！】～アウトウ事業の推進～
アーバンスポーツの総合国際大会である「**F I S E (エクストリーム・スポーツ国際フェスティバル)**」を今後開催予定。
- ③【競技人口の普及と健康増進！】～インナー事業の推進～
2024年のパリ五輪に向け注目が集まるアーバンスポーツの更なる**競技人口普及**と、幅広い世代の**健康増進**に寄与。



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



<概要> 計画期間：～令和9年3月31日（※施設は令和5年度中の完成を予定）

<現状・課題>

- アーバンスポーツの国際大会誘致を目的に**世界レベルのアーバンスポーツパーク（1st）**を整備し、これまで、BMXフリースタイル・パーク及びローラーフリースタイル（アグレッシブラインスケート）の日本大会開催や、小さな子ども向けにストライダーのイベント等を開催してきた。
- しかし、これらの大会やイベントでは**雨により度々中断や中止**を余儀なくされ、**安定的に開催することが厳しい状況**にあったことから、今後国際大会を誘致する上で施設に屋根を付け**全天候化することは必須**である。
- また、練習で使用される利用者にとっても、昨今の**猛暑日が続く夏では熱中症の危険**もあることから、全天候化によりこういった**危険を回避**しなければならない。



<総合的な取組内容>



【フォローアップ欄】令和6年度以降における計画の進捗状況

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：企画部 地方創生課
- 地方スポーツ推進計画：なし
- 地方版総合戦略：第六次境町総合計画
- 地域スポーツコミッション：なし



【問合せ先・電話番号】
茨城県境町 企画部 地方創生課 0280-81-1309

とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略



スポまち！長官表彰2023
⑦ 栃木県

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

- スポーツと組み合わせた観光・地域づくり等の推進により県内にスポーツツーリズムの普及を図り、県内外の交流人口の拡大を通じ、にぎわいの創出など県内を活性化
【KPI】スポーツ合宿等の相談団体数 300団体(2025)、大規模大会や国際大会の誘致 複数回開催(2025までに)
- スポーツを生かし、高齢者、女性、子ども、障害者など誰もがいきいきと暮らし活躍する地域づくりの推進
- スポーツを生かし、とちぎのブランド力向上、県民がふるさとに愛着と誇りを持てる地域の実現

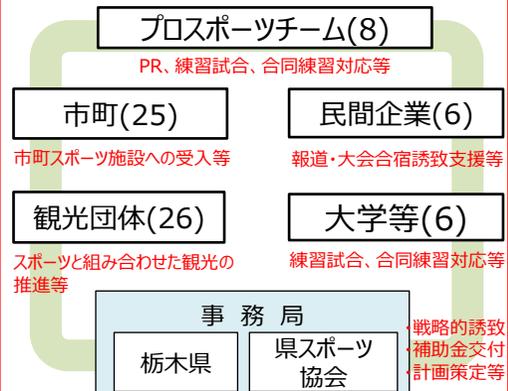
<PRポイント>

○いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会のレガシーを継承し、本県のスポーツを活用した「新しいとちぎ」づくりを推進！

そのため、スポーツと観光等の他産業をつなげる役割を担う新組織として、県、25市町、プロチーム、民間企業等で構成される『**栃木県スポーツコミッション**』を新たに設立し、本県の強みを最大限に生かした取組を推進

<継続的な取組を確保できる体制>

【栃木県スポーツコミッション:73団体】



<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

- 令和4(2022)年に42年ぶりとなる第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」及び本県初開催の全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」が開催され、『夢を感動へ。感動を未来へ。』のローガンのとおり、未来につながる大会に。
- 両大会の有形・無形のレガシーを確実に継承し、「新しいとちぎ」づくりにつなげていけるかが課題。

本県の資源・強み

国体・障スポレガシー



充実したスポーツ施設



本県の強み (Strength)

- ・東京圏からのアクセスの良さ
- ・山や川、湖など豊富な自然
- ・全国トップレベルの競技数を誇るプロスポーツチームの存在
- ・温泉、農産物、伝統工芸品、歴史・文化等の多様な地域資源 等

<総合的な取組内容>

栃木県SCが中核となり、本県の資源強みを最大限に生かした取組を推進



①大規模大会、スポーツイベント、合宿等の誘致

②スポーツと組み合わせた観光・地域づくり等の推進

③テーマ別スポーツツーリズムの推進 等

「スポーツツーリズムによる地域活性化」の実現

【フォローアップ欄】令和6年度以降における計画の進捗状況

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：栃木県生活文化スポーツ部 スポーツ振興課
- 地方スポーツ推進計画：栃木県スポーツ推進計画 2025
- 地方版総合戦略：とちぎ創生15戦略（第2期）
- 地域スポーツコミッション：栃木県スポーツコミッション

【問合せ先・電話番号】

栃木県生活文化スポーツ部
スポーツ振興課
TEL 028-623-3604



スポーツ・健康まちづくり【那須塩原モデル】で地域活性化プロジェクト

—那須塩原スポーツコミッション始動！—



スポまち！長官表彰2023
⑧ 栃木県那須塩原市

<目標分野> ※該当するものに全て

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病氣予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

【スポーツによる交流人口の拡大・地域活性化】

昨年開催されたいちご一会「とちぎ国体・とちぎ大会」による国体レガシーと、スポーツと市内の豊富な地域資源を活かした「那須塩原らしい」まちづくりにより、交流人口の拡大、地域活性化を目指す。

【市民誰もがライフステージに応じたスポーツを！】

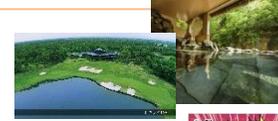
市民誰もがスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことに参加し、スポーツに親しむことができる環境づくりの実現。

○目標値 (KPI) 市民のスポーツ実施率 現状値 36.4% ⇒ 目標値56.4% (全国平均)

<PRポイント>

①豊かな自然、多種多様な温泉、魅力的な地域食材、豊富な宿泊施設

全国でも有数の温泉地である塩原温泉、板室温泉を有し、約200の源泉から湧き出す温泉と約70の宿泊施設、那須塩原ブランド認定の食材でおもてなし！



②多彩なスポーツ環境

国体競技（サッカー、トライアスロン、ゴルフ、ソフトテニス）をはじめ、アウトドアアクティビティまで！

③スポーツをする・はじめる・継続する機会の創出

市民誰もがスポーツに関わることができる体制整備⇒年齢、経験に応じたスポーツ教室や大会の開催。



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



<概要> 計画期間：～令和10年3月31日

<現状・課題>

本市では、JAPAN PLAYERS CHAMPIONSHIP（男子ゴルフ）やJDリーグ（女子ソフトボール）などの集客を見込めるプロスポーツ大会の開催やスポーツ合宿を現在も支援しており、今後も市をあげて支援が必要である。こういった大会や合宿の盛り上がりには、「地域から盛り上げる」ことが大切であり、合宿や大会の開催の誘致や支援をし、地域資源を最大限に活かしたスポーツツーリズムの中核を担う行政と民間団体等が連携した組織の設立が必要である。

⇒スポーツを核としたまちづくりの推進⇒市内外の交流人口の拡大⇒地域活性化

<総合的な取組内容>

スポーツ・健康まちづくり【那須塩原モデル】

①合宿・大規模スポーツ大会の誘致、開催支援

⇒相談・支援窓口をワンストップ化

②合宿飯の開発

⇒那須塩原ブランド食材を使用した合宿飯を那須拓陽高校と開発

①自然資源を活用したスポーツの推進

⇒自転車、スキー、トライアスロン、ゴルフ、アクティビティ)の推進

②子供から高齢者までスポーツに親しむことのできる環境の整備

⇒体験教室（eスポーツ等）や、年齢、経験に応じたスポーツプログラムの提供

交流人口拡大・地域活性化・
地域課題の解決

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：那須塩原市教育委員会事務局 教育部スポーツ振興課
- 地方スポーツ推進計画：第2期那須塩原市スポーツ推進基本計画
- 地方版総合戦略：第2次那須塩原市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：那須塩原スポーツコミッション（令和5年9月25日設立）



【フォローアップ欄】 令和6年度以降における計画の進捗状況

【問合せ先・電話番号】 0287-37-5439
栃木県那須塩原市教育委員会スポーツ振興課

地域が場を作り、学生が盛り上げる！3人制バスケを通じたまちづくり「3x3 KUKIプロジェクト」

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

市内で一体となって3X3の普及啓発へ！

- 【具体目標】
1. スポーツ実施率 53.4%(令和2年度)▶65%(令和8年度)へ。
 2. プロチームとの連動イベント開催(12回/年)。参加者数(延1,000人/年)及び来場者数(延5,000人/年)。
 3. 運動・スポーツが好きな児童生徒の割合・・・小学校90.2%▶95%、中学校70.2%▶85%
 4. 学校開放施設利用者数 約17万人▶19万人以上、公共スポーツ施設利用者数 約92万人▶100万人以上

<PRポイント>

- ① 3X3でまちをデザイン！プロや市民団体、企業と作り上げるスポーツコミュニティ
- ② マルシェとスポーツをつなぐ取組みでスポーツ実施率アップへ

<概要> 計画期間：～令和9年3月31日

プロ/市民団体/企業/高校が「育成」をコンセプトに連携して作りだす

3X3のスポーツコミュニティ！



小学生

市内ミニバス児童が対象。プロや高校生と連携して実施し、スポーツに親しむ機会を創出。

中学生

市内外の中高校生が対象。広域展開を図ることで、技術力向上をや交流を目的とする

高校生

全国優勝の高校を核とした市内5つの高校が対象。商業施設で開催することで、多くの人に認知してもらおう取り組み。

プロ

プロまでの道筋が示されていることで、意欲的な取組が可能に！プロ化を念頭に置いた育成強化も期待できる。

<現状・課題>

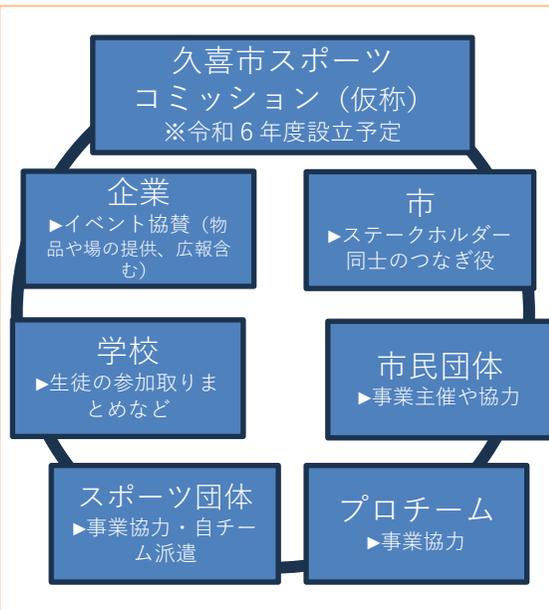
1. スポーツ実施率が53.4%と若年層を中心に低下。
＝若年層のスポーツ離れが深刻に
2. プロチーム「埼玉ワイルドベアーズ」が久喜市をホームタウンとして活動開始

<総合的な取組内容>

育成システムを目標にしつつ、各年代が相互にコミュニケーションを取り合うスポーツコミュニティの機会を創出
▶市民団体3X3KUKI実行委員会が主体的に実施

コートが移動式である強みを利用し、商業施設やマルシェと連携したイベント開催による競技人口底上げを見込む

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：埼玉県久喜市役所 健康スポーツ部
- 地方スポーツ推進計画：久喜市スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：久喜市総合戦略
- 地域スポーツコミッション：久喜市スポーツコミッション（令和6年度設立予定）

【問合せ先・電話番号】

久喜市健康スポーツ部スポーツ振興課
0480-22-1111

【フォローアップ欄】令和6年度以降における計画の進捗状況

しながわホッケー地域応援プロジェクト



品川区ホッケー応援キャラクター
シナカモン

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

- ① ホッケーをきっかけとした地域の賑わいの創出
- ② ホッケーをきっかけとしてスポーツを「する」「みる」「ささえる」人口の拡大

<PRポイント>

- ・品川区・日本ホッケー協会・東京都ホッケー協会の三者で「オフィシャル社会共創パートナー協定」を締結（令和3年度）それぞれの持つ力で、それぞれの課題を解決することを目的に本協定を締結。現在も三者が連携して事業を行っている。
- ・年間を通してホッケーを応援する事業を展開（令和5年度）「日本代表国際強化マッチ」など、ホッケーの大会をきっかけに競技団体・関係団体・民間企業などが連携し地域を挙げて応援。令和5年度は2日間で3,100人の来場があり、地域全体での賑わいの創出に寄与した。（令和4年度実績：2,900人）

<概要> 計画期間：～令和6年3月31日（単年度ごと検討）

<現状・課題>

東京 2020 大会のレガシーとして大井ホッケー競技場を新たな地域資源と捉え、長期的にホッケー競技を通じたスポーツ振興を図り、地域の賑わいを創出することが求められる。

<総合的な取組内容>

ホッケーを通じて地域・文化・観光・企業など他分野の団体と連携しながら地域・経済の活性化を図る。

ホッケー体験コーナー
イベントごとに体験ブースを設置



する

日本代表国際強化マッチ
日本代表戦の際に地域を挙げて応援



みる

ホッケー×地域
マスターズW杯にて海外選手を
おもてなしブースで歓迎



ホッケー×競馬場
大井競馬場×ホッケーコラボイベント
(冠レース、コラボフードなど。
写真は女子ホッケー日本代表)



ささえる

ホッケー×商店街
日本代表商店街訪問



交流人口の拡大
地域経済の活性化

スポーツをする・みる・
ささえる人の増大

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：
品川区文化スポーツ振興部スポーツ推進課
- 地方スポーツ推進計画：品川区スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：品川区総合実施計画
- 地域スポーツコミッション：なし

【問合せ先・電話番号】

品川区文化スポーツ振興部スポーツ推進課
スポーツ振興担当 TEL：03-5742-9109

【フォローアップ欄】令和6年度以降における計画の進捗状況

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ✓ ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ✓ ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ✓ ③ 自然と体を動かしてしま「楽しいまち」への転換

<目標内容>

本市の豊かな自然や近代日本の礎となった歴史などの地域資源にスポーツの持つ力を融合させ、本市ならではの新しいスポーツ文化を創造・発信しワクワクがあふれる街づくりを進めることで、市民、特に子どもたちの夢や感動を育み、シビックプライドの醸成を図るとともに、その魅力を発信し、交流人口・関係人口の拡大につなげる。

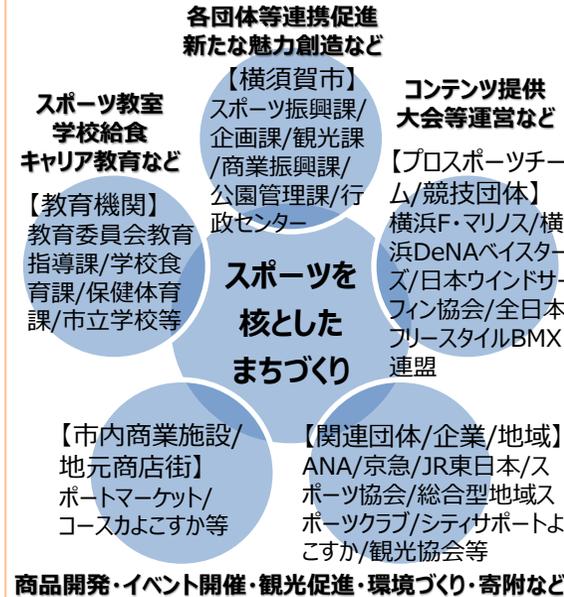
【目標】「スポーツを活用した取組」が進んでいる実感の割合増、市民の定住意向の割合増、スポーツ交流人口の増

<PRポイント>

ホームタウンチーム練習拠点の存在や国際大会誘致を契機としたスポーツを核としたまちづくり

- ① **自然や歴史などの地域資源とスポーツのもつ力を融合** >>> 新たなスポーツ文化の創造・聖地化
- ② **トップアスリートが身近な存在** >>> 子どもたち等の夢や感動を育むとともにスポーツへの関心・興味を喚起
- ③ **ホームタウンチームの存在** >>> 地域の魅力向上、教育分野連携による人材育成、民間投資促進

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

人口減少や高齢化が進行しており、基幹産業も衰退してきている状況から、産業構造の変革が急務となっている。そのためには、住民がワクワクする街づくりをすすめ、活力を生み出していくことが必要である。

⇒「音楽・スポーツ・エンターテインメント都市」の実現を目指し、「**スポーツの力を活用したまちづくり**」を推進していく

<総合的な取組内容>



ウインドサーフィン 『自然×スポーツ』

サイドショアが吹く日本屈指のグレンデをPRするため、W杯を誘致・開催。これをきっかけに日常的なウインドサーフィン来場者増、新たな大会等を開催、地域連帯感が向上。



アーバンスポーツ 『歴史×スポーツ』

黒船来航の歴史や米海軍基地の存在による異国情緒あふれる風土にあったアーバンスポーツに着目。BMXジャパンカップを誘致し、施設も整備。ストリートダンス大会を誘致。



ホームタウンチーム 『プロチームの存在』

横浜DeNAベイスターズと横浜F・マリノスの練習拠点を誘致し整備。学校訪問による選手等とのふれあい創出、ホームタウンを感じられるまちづくり、地域イベント連携を実施。

今後の展開

滞在時間延長、地域消費拡大

W杯を継続開催。更なる日常的な利用促進を図るための施設整備や新たなライフスタイル（ワーケーション等）の定着を図る。

新たな文化定着、関係人口拡大

BMXジャパンカップを継続開催。パルクールやスケートボード、ジュニアダンスバトルなど様々なアーバンスポーツへの展開を図る。

地域アイデンティティの醸成

地域情報の発信による魅力向上や地域活動を通じた交流促進、教育分野連携による人材育成やスポーツへの興味喚起を図る。

「ワクワクがあふれる街」へ

【問合せ先・電話番号】

横須賀市文化スポーツ観光部スポーツ振興課
TEL 046-822-8493

標高差1,500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

まちの欠点（平地が少ない）を認め、転換思考をもって地域の資源（価値）に繋げ、地域活性化に取り組む
⇒標高差のあるまちの特徴を活かすため、高地トレーニングエリアを整備

～「とうみ」へ新しい人の流れをつくる～ 交流人口の増加、地域経済の活性化

湯の丸高原スポーツ交流施設利用者の市内宿泊数 14,000泊（令和7年度目標）

湯の丸高原スポーツ交流施設において医科学的なデータが集積されることで、市民の健康長寿の取組みへ還元したい。



<PRポイント>

どこよりも高く

SUNRISE 高地トレーニングの夜明け

標高1,750m

【国内唯一】高地トレーニング用屋内プール

【国内最高地点】全天候型400mトラック

どこよりも近く

東京との距離は約200km

移動時間は最短で2時間30分

どこよりもコンパクト

全ての施設が直径500mに収まる

<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

「難読市」ランキング堂々の1位！人口3万人弱の小さな自治体であり、知らない方が大半

スポーツ合宿利用者：H31年5,165泊、R元年11,972泊、令和2年10,179泊、令和3年11,956泊、令和4年12,107泊 ⇒《R7目標：14,000泊》

東京オリンピック・パラリンピックを経て評価が上がり、監督・コーチの口コミや選手のSNSでの発信もあり「東御」、「湯の丸」の認知度が飛躍的に向上。

<総合的な取組内容>

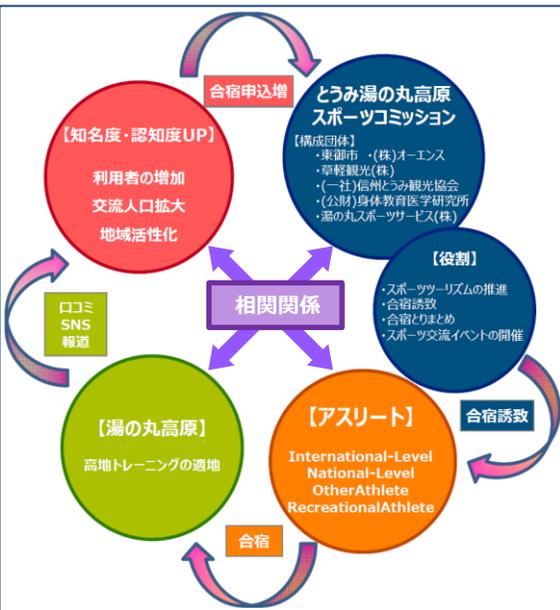
- 多様な宿泊ニーズに応えるため、合宿所タイプの宿泊施設に加え、令和3年にアパートメントタイプの宿泊施設を整備
⇒目標：宿泊者数 14,000泊
- とうみ湯の丸高原スポーツコミッションが合宿の誘致、支援を行い、練習環境から宿泊、食事の手配に至るまで、ワンストップでトータルサポートすることで利用者負担を最大限軽減
⇒目標：交流人口の増加、地域経済の活性化
- 長期滞在する選手やコーチ陣のために地産の食材を活用した女子栄養大学監修の食事を5週間毎食違うメニューを提供。管理栄養士が常駐し、アレルギー対応も可能。
⇒目標：宿泊者、交流人口増、地域経済活性化



GMOアスリートパーク湯の丸



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：東御市文化・スポーツ振興課
- 地方スポーツ推進計画：東御市スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：東御市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略
- 地域スポーツコミッション：とうみ湯の丸高原スポーツコミッション

【問合せ先・電話番号】

東御市企画振興部文化・スポーツ振興課
TEL 0268-75-1455

【フォローアップ欄】令和6年度以降における計画の進捗状況

スポーツで心と体を元気に ～市民のウェルビーイング向上を目指して～

< 目標分野 > ※該当するものに全て印

- ☑ ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ☑ ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ☑ ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

< 目標内容 >

- ① 生活の隙間時間にできる運動のプログラムの**開発と普及**
- ② 新たなスポーツを活用したスポーツの**推進**
- ③ 健康増進のための運動・スポーツの**習慣化**



< PRポイント >

生活のなかで気軽にできるスポーツの推進

「買い物しながら」「子育てしながら」など、日常生活の中に運動習慣を取り入れ、スポーツをもっと身近に感じてもらうきっかけづくりを行う。

ニュースポーツを活用したスポーツの普及

ニュースポーツ等を「見て・聞いて・触れて・体験」することで、スポーツの普及を図る。

AI技術を活用した健康づくり

働き盛り世代を対象に自発的な健康づくりを促すヘルスケアアプリを導入し、パーソナライズされた結果予測・アプローチとインセンティブ活用で、事業参加から継続、健康習慣の定着化を促す。

< 概要 > 計画期間：～令和7年3月31日

現状・課題

高齢人口が増加傾向にある中で、健康で元気な高齢者を増やすことが求められているが、本市においては**メタボリックシンドローム**や**フレイル予備軍とされる人たちが増加**しているという課題がある。（第2次磐田市健康増進計画（前期計画）の評価から）
こうした傾向に歯止めをかけるため、スポーツの定義をより広くとらえ、**産官学で生活に取り入れることができる手軽な運動メニューの開発と普及を図る**ことで、**市民のスポーツ実施率向上による健幸なまちづくり**を目指す。

総合的な取組内容

現在の課題

スポーツができていない理由

- 仕事・家事が忙しい
- はじめるきっかけがない

不健康増

産官学による連携事業

日常生活で運動習慣

買い物しながら運動
「ららぽーとウォーク」の実施
[大学×民間事業者]



市内には公園がいっぱい
冊子「イワタde運動あそび」の配布
[大学]

見て・聞いて・触れて・体験

競技もレクリエーションも楽しめる
「スポレク健康フェスティバル」の実施
[スポーツ協会×スポーツ推進委員]



健康増進のための習慣化

働き盛り世代の自発的な健康づくりを促す
「ヘルスケアアプリ」の導入
[民間事業者]



目指す「進化論」像

スポーツで
心身ともに健康な
まちづくり

ウェルビーイング
健幸な市民増

< 継続的な取組を確保できる体制（図） >



各種基礎データ

- **スポーツ部局の所属先** 自治市民部スポーツのまち推進課
- **地方スポーツ推進計画** 磐田市スポーツ推進計画
(平成28年4月1日策定)
- **地方版総合戦略** 磐田市まち・ひと・しごと創生推進計画
- **地域スポーツコミッション** なし

【問合せ先・電話番号】

磐田市スポーツのまち推進課 0538-37-4832

【フォローアップ欄】 令和5年度以降における計画の進捗状況

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

サッカーを核としたスポーツによるまちづくりを進め“まち”と“ひと”が元気な健康都市・藤枝の実現！

【具体目標】

- ① 交流人口・関係人口・活動人口の拡大と地域活性化…年間観光交流客数252万人（2018年）→257万人（2024年）
- ② 健康長寿社会の実現…成人の週1日以上スポーツ実施率56.7%（令和元年度）→65.0%（令和7年度）

<PRポイント>

【蹴球都市ふじえだ】…全ての人々が、本市の個性であるサッカー文化を実感できるまちづくりを展開
 【サッカー文化との共創】…サッカーが牽引し、野球・バスケットボール・武道・マラソン等のスポーツ活動及び日本遺産・お茶・音楽・陶芸等の文化芸術の活動も活性化し、健康・教育・商業・観光等の成長を促進

<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

- ◎ 若者（女性）の人口流出が顕著で、労働力の低下や地域活力の低下が懸念。
- ◎ 高齢化率が29.5%と高く、地域差が大きい。

<総合的な取組内容>

藤枝市まち・ひと・しごと創生総合戦略

一つのスポーツの枠を超えた
 “サッカーを核としたまちづくり”



産業としごとを創る【雇用】

サッカーを核とした女性が輝くまちづくり



普及・育成・強化・雇用を各種関係機関との連携推進
 ・なでしこシャインプロジェクト
 ・住居費用補助制度

ひとの流れを創る【経済】

地域の宝を活かしたスポーツ教室・イベントの開催



「いつでも」「どこでも」「いつまでも」スポーツに親しみ、楽しむ、教室やイベントの開催

スポーツ大会・合宿の誘致プラットフォームの構築



民間の活力と地域資源を融合させた大会の開催や合宿を誘致
 ・宿泊補助制度

藤枝独自のスポーツツーリズムの確立

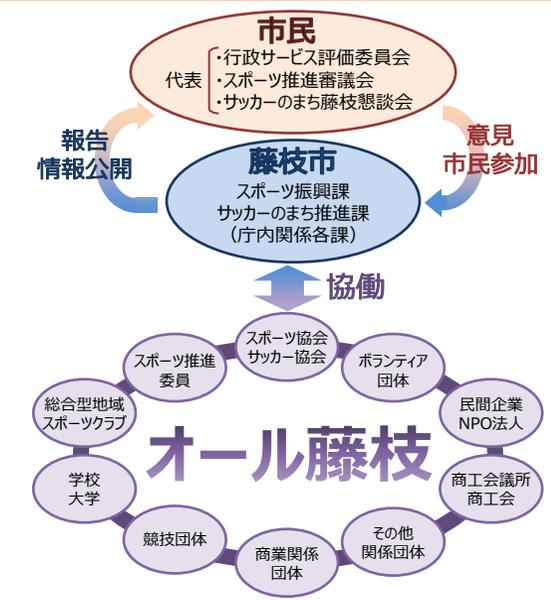


スポーツ・歴史・芸術・食などの文化体験を掛け合わせ、多様な新しい魅力を発信
 ・プロスポーツ観戦宿泊補助制度

年間観光交流客数・スポーツ実施率 **増**

夢と希望あふれる“幸せになるまち藤枝”の実現

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：藤枝市 スポーツ振興課
- 地方スポーツ推進計画：藤枝市スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：ふじえだまち・ひと・しごと推進計画
- 地域スポーツコミッション：なし

【問合せ先・電話番号】
 藤枝市 スポーツ文化観光部 スポーツ振興課
 TEL 054-643-3126

まちづくりマインドを醸成！安城市発、スポーツをフックにするまちづくり

スポまち！長官表彰2023
⑮愛知県安城市

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

- ① みんなでスポーツチームを応援して、企業と地域の関わりをつくろう！
- ② みんなでスポーツをマチナカで体験して、気軽に運動でき、気軽に関わりあえるまちをつくろう！
- ③ みんなでスポーツを考え、スポーツをつかって「楽しいまち」となる機会をつくろう！

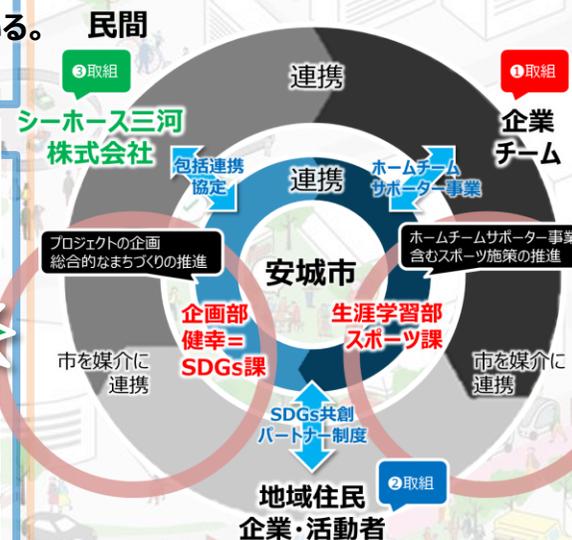
● 成人のスポーツ実施率 50.5%^(R5) → **53.0%**^(R7) ● スポーツ事業参加者数 115,000人^(R5) → **119,000人**^(R7)

<PRポイント>

- ・ホームチームサポーター事業を通じて、企業とのスポーツ連携の強化を進めている。
- ・プレイスメイキングを通じて、地域におけるスポーツ機会の提供や居住者・就労者・企業の関係づくりを進めている。
- ・プロスポーツチームを巻き込みながら、スポーツやスポーツを通じた関係づくりの意識醸成を進めている。

<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



現状・課題

1) するスポーツ

…仕事や家事を行いながらでもスポーツがしやすい環境づくりや機会の充実が必要。

2) みるスポーツ

…スポーツを観て、知識向上や素晴らしさを知り、スポーツへの参加・活動につながるよう、スポーツ観戦機会の創出が必要。

3) スポーツ団体

…スポーツ団体の主体的な活動の支援が必要。

4) 関係人口創出 (網羅的課題)

…ハイレベルな試合の開催支援などを通じて、市民のスポーツに対する関心の高まりを継続させていくことが必要。

③スポーツワークショップ

TIP OFF!



みる・するスポーツの振興



総合的な取組内容

①ホームチームサポーター事業



スポーツ団体の育成・支援



②マチナカでのプレイスメイキング



するスポーツの振興



【フォローアップ欄】令和6年度以降における計画の進捗状況

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：安城市スポーツ課
- 地方スポーツ推進計画：第2次安城市スポーツ振興計画（改訂版）
- 地方版総合戦略：第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：ホームチームサポーター事業実行委員会

【問合せ先・電話番号】

安城市企画部健康=SDGs課
TEL 0566-71-2204



<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

取組の効果を最大限に引き出すためには我が町の特性を活かした推進体制で取り組むことが必要不可欠であり、行政や住民、宿泊・飲食・観光事業者を始めとする産業、スポーツ科学部など様々な教育・研究分野を有する日本福祉大学、スポーツまちづくりに関する専門的な知見やノウハウを有する民間企業など「スポーツ」によって繋がれた者同士が一体となり、共通のビジョンを見据えて前例にとられないことなく突き進んでいくことで、町全体が成長し続け、魅力と活気にあふれる輝く町となることを目指す。

<PRポイント>

- ① **美浜町運動公園**・・・本町の交流人口・関係人口増加と消費拡大による地域経済の活性化を図るため、美浜町総合計画に基づく名鉄知多奥田駅周辺のまちづくりの一環として、陸上競技場（日本陸上競技連盟第3種公認）を中心とした**美浜町運動公園**の整備
- ② **スポーツを核としたまちづくり**・・・運動公園の整備を契機として、運動公園を軸に**スポーツと健康・福祉・教育・経済を連動**させた「**スポーツを核としたまちづくり**」に取り組むことで、町が抱えるさまざまな課題を解決し、町全体の活性化を図ることを目指す
- ③ **デジタル田園都市国家構想交付金の活用**・・・今回の「**スポーツを核としたまちづくり事業**」に関し、デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用



美浜町運動公園

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

美浜町が目指す事業体

関係団体に横串を刺し、**オール美浜の体制**でまちづくりに取り組んでいく



スポーツでつなぐ、美浜の未来
BE A CHALLENGER!



<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

- ① 運動・スポーツの機会の少なさによる住民の地域への魅力度・愛着度低下<インナー向けの課題>
- ② 地域の魅力や価値の発掘・発信不足によるアウトターの取り込み不足<アウトター向けの課題>
- ③ スポーツまちづくり事業推進の旗振り役の不在
- ④ 大学生の卒業後の町外流出



<総合的な取組内容>

- ① 住民のウェルビーイング向上に資するプログラムの開発・実証・確立



<MIHAMA FITNESS>



<高齢者向けヘルスケア>



<English Sports Camp>



<スポーツ×英語教育>



<みはまスポーツフェスティバル>

② 我が町の特長や地域資源を活用したアウトター向けコンテンツの開発・実証・確立



<宿泊事業者向けセミナー>

③ 域外来訪者の受け入れ・おもてなし体制の再構築

④ 「スポーツまちづくり」の中心的かつ推進役を担う、地域自身がオペレーションする持続可能な事業主体の組織・育成

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：教育部生涯学習課
- 地方スポーツ推進計画：美浜町スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：第2期 美浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：一般社団法人みはまスポーツコミッション(仮称)(R6.9～)

【問合せ先・電話番号】

愛知県知多郡美浜町総務部企画課
スポーツまちづくり推進係 0569-82-1111 (311)



<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

令和5年4月から松阪市職員となったリオデジャネイロ五輪金メダリスト（レスリング女子69kg級）の土性沙羅さんが、「ズポ-ツのチカラ」を様々なかたちで市民の皆さまに伝えることで、スポーツと運動したまちづくりを推進する。同時に、土性さんの活躍をアスリートのセカンドキャリアの新たなロールモデルとして広く発信していき、地方自治体における多様で優秀な人材の獲得につなげていくことを目指す。（主なKPI：20歳以上の市民が週1回以上スポーツを行う割合70%（令和8年度目標値））

<PRポイント>

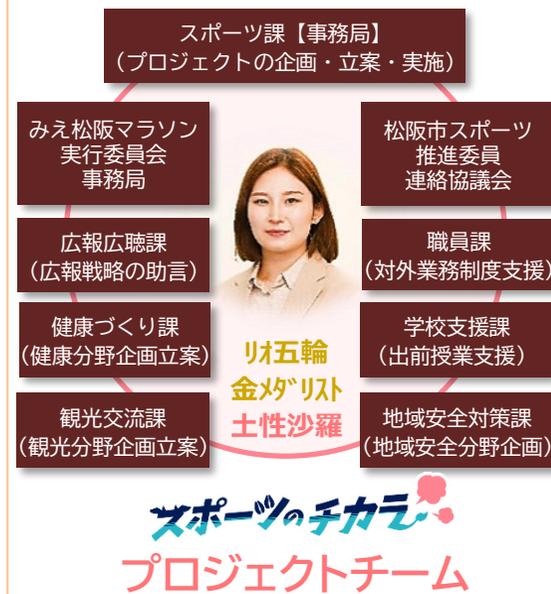
① 全庁的なプロジェクトチームを編成

スポーツ課に配属された土性さんにおいては、市職員としての通常業務に加え、**オリンピックの土性さんだからこそできる取組を「プロジェクト」化するため、役所内にプロジェクトチームを編成し、実効性のある体制を構築し取組を推進。**「ズポ-ツのチカラ」をキーワードにスポーツ分野だけでなく**観光、健康、地域づくりなどに横展開していくことで、スポーツと運動したまちづくりに取組む。**

② 新たなロールモデルとして広く発信

オリンピックの土性さんの活躍を**トップアスリートのセカンドキャリアの新たなロールモデルとして広く発信していき、地方自治体における多様で優秀な人材の獲得**につなげていくことを目指す。

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



<概要> 計画期間：～令和9年3月31日

〈現状・課題〉 コロナ禍で停滞した地域経済、そして希薄になった人間関係をスポーツを通じて回復させるべく、スポーツを通じた活力ある地域づくり、絆の強い社会づくりに取組むことが望まれる。

<総合的な取組内容>

- ① 子どもたちに伝えるズポ-ツのチカラ
 - ・市内小中学校における出前授業の実施。
 - ・松阪地区の高校体育教員の講習会における実技指導。
- ② 公式SNSを通して伝えるズポ-ツのチカラ
 - ・Instagram「ズポ-ツのチカラ」での情報発信。
 - ・YouTube「土性沙羅のズポ-ツのチカラ応援ch」の配信。
- ③ 様々なイベント等を通じて伝えるズポ-ツのチカラ
 - ・「みえ松阪マラソン」関連イベントの実施。
 - ・プロジェクトのキャラクター作成と愛称募集。
- ④ ズポ-ツのチカラ × 観光・健康・地域づくり等
 - ・土性さん目線の観光PRや健康啓発動画の制作・発信。
 - ・住民自治協議会や各種団体を対象とした出前講座の実施。



スポーツに親しむ市民の輪が広がり、健康なまち、元気な松阪へ！

【フォローアップ欄】 令和6年度以降における計画の進捗状況

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：教育委員会スポーツ課
- 地方スポーツ推進計画：松阪市スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：松阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：無

【問合せ先・電話番号】

松阪市教育委員会事務局スポーツ課
0598-53-4402

「サイクルシティ堺」への挑戦～堺の自転車文化を未来へ継承～

＜目標分野＞ ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

＜目標内容＞

自転車を活用した健康増進・産業振興・都市魅力の創出（産学公民連携による推進）

- 目標 1：健康寿命の延伸（堺市基本計画2025 KGI【重要目標達成指標】：2030年度 男性74.00年 女性77.00年）
- 目標 2：自転車利用環境満足度の向上（堺市基本計画2025 KPI【重要業績評価指標】：2025年度 50%）
- 目標 3：スポーツ・運動習慣者割合の向上（堺市基本計画2025 KPI【重要業績評価指標】：2025年度 50%）

＜PRポイント＞

【自転車の歴史・文化】世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」を築造するための鉄加工技術に堺の自転車産業のルーツあり

シマノ自転車博物館を拠点に自転車の歴史・文化を発信

【SAKAI散走】自転車で街を巡り、歴史・文化や伝統産業、食に触れる自転車の新しい楽しみ方を創出

【サイクルスポーツ】ツアー・オブ・ジャパン堺ステージやBMX等の迫力ある自転車競技大会の開催



＜シマノ自転車博物館＞

＜概要＞ 計画期間：～令和8年3月31日

＜現状・課題＞ 男女ともに全国平均を超える健康寿命の延伸

＜総合的な取組内容＞



＜インクルーシブサイクリング＞



＜BMX試乗体験イベント＞

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

サイクルシティ堺

産学公民

- （株）シマノ ●大阪芸術大学 ●関西大学
- （独）都市再生機構 ●（公財）シマノ・サイクル開発センター
- （公財）日本自転車競技連盟 ●堺 自転車のまちづくり・市民の会
- （公社）堺観光コンベンション協会
- （一社）散走ネットワーク
- SCC（堺コミュニケーションサイクル）など

堺市

スポーツ団体

- シマノレーシング（ロードレース）
- 堺プレイヤーズスポーツクラブ
- 堺プレイヤーズ（ハレーボール）
- GANTRIGGER（BMX）

スポーツ大会

- ツアー・オブ・ジャパン堺ステージ
- 全日本自転車競技選手権BMXレーシング
- 堺プレイヤーズホームゲーム

自転車を活用した多彩な魅力創出

自転車×健康

- ・SAKAI散走による健康増進
- ・シェアサイクルによる自転車利用促進
- ・サイクルスタンプラリー（UR都市機構）



＜SAKAI散走＞

自転車×歴史・文化

- ・「ファクトリズム散走」（工場体験ツアー）
- ・堺産自転車タクシーによる自転車観光
- ・シマノ自転車博物館での情報発信



＜ファクトリズム散走 染物体験＞

自転車×スポーツ

- ・ツアー・オブ・ジャパン堺ステージの開催
- ・全日本自転車競技選手権BMXレーシングの開催
- ・堺プレイヤーズと連携したサイクルツーリズム



＜ツアー・オブ・ジャパン堺ステージ＞

自転車×アート

- ・サイクルアートを活用した魅力発信
- ・「アート散走」（芸術施設ツアー）
- ・子どもたちの自転車絵画コンクール



＜サイクルアート＞

各種基礎データ

- 本計画推進部局の所属先：建設局 サイクルシティ推進部
- 地方版自転車活用推進計画：堺市自転車活用推進計画
- 地方版総合戦略：堺市基本計画2025
- 地域スポーツコミッション：

【問合せ先・電話番号】072-228-7636

大阪府 堺市

建設局 サイクルシティ推進部 自転車企画推進課

【フォローアップ欄】令和6年度以降における計画の進捗状況

スポーツ合宿を核とした交流人口創出計画

<目標分野> ※該当するものに全て✓

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

スポーツ合宿の積極的な誘致に取り組み、当地域の合宿地としての認知度を向上させ、国内外からの多数の合宿を受け入れていく。アスリートとの交流や競技を間近で観戦することなどを通じた**スポーツ振興**と、**交流人口の増加**を図り、宿泊や飲食をはじめとした市内での消費拡大による**地域の活性化**を推進し、持続可能なまちづくりを目指す。

<PRポイント>

【紀の国わかやま国体等で整備した施設の活用】

競技会場として整備した田辺スポーツパーク等の施設をスポーツ合宿の誘致に活用

【南紀エリアスポーツ合宿誘致推進協議会との連携】

広域エリアでプロモーションなどを実施。各市町が保有するスポーツ施設を効率的に運用

【ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設】

パラリンピック陸上競技の拠点施設としてスポーツ庁から指定されている田辺スポーツパーク



<概要> 計画期間：～令和10年3月31日

<現状・課題>

本市の人口は約7万人。将来人口を推計すると令和42年には約36,000人にまで減少する見込みとなっており、人口減少への対応と地方創生の推進を図るため、交流人口や定住人口の増加につなげる取組が必要。

<総合的な取組内容>

□スポーツ・ツーリズム・コーディネーターの配置

スポーツ合宿の営業活動を行うコーディネーターを配置

□南紀エリアスポーツ合宿誘致推進協議会との連携

広域エリアでプロモーションや助成事業などを実施

□NTC競技別（陸上競技）強化拠点施設に指定

パラスポーツに知見と実績を有する県立医科大学と連携し、田辺スポーツパークで強化合宿等を実施

□全日本女子野球連盟から女子野球タウンに認定

女子野球連盟とタッグを組み、女子野球の普及と市町村の地域活性化を推進

□スポーツ施設の整備・充実

トレーニング施設の整備

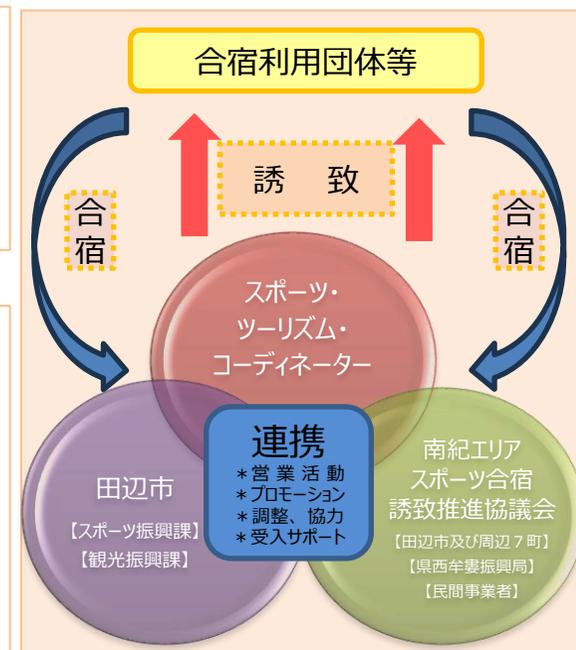


スポーツの振興

交流人口の増加

地域の活性化

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：
田辺市教育委員会スポーツ振興課
- 地方スポーツ推進計画：なし
- 地方版総合戦略：
田辺市まち・ひと・しごと創生推進計画
- 地域スポーツコミッション：なし

【問合せ先・電話番号】

田辺市教育委員会スポーツ振興課
 TEL 0739-25-2531

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

スポーツを通じた持続可能な「まちづくり・ひとづくり」

青山学院大学陸上部と協力し、世代や地域を超えた交流を広げ、つながり・絆を深めながら持続可能なスポーツを通じたまちづくり・ひとづくりを進める。
①指導者資格（クラブコーチ育成カリキュラム）認定者保有者・・・2025年度までに30名以上 ※萩市内のスポーツを支える人材を確保する。
②絆ランニングクラブ萩入会者数・・・50名以上 ※陸上競技を核とし、中学校の地域クラブ活動を通じたスポーツの新たな価値を創造する。

- ① 青山学院大学陸上部が開発した**指導者育成研修会**を展開。
- ② トップアスリートを地域**イベントに招聘**・世界遺産がスポーツフィールド
- ③ 青山学院大学陸上部が監修する**陸上クラブを地域に創設**。

明治維新胎動の地 萩市から全国に向けて
スポーツによる好循環を発信します!!



松下村塾（世界遺産）にて

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



青山学院大学陸上部と連携!!



PR
ポイント

<概要> 計画期間：～ 令和8年3月31日

<現状・課題>

- ・少子化の進行により、中学校部活動において、学校単位での部活動の維持が難しくなっていくことが見込まれる。
- ・中学校部活動の地域クラブ活動移行に向け、受け皿、スポーツ指導者の育成・確保が急務である。
- ・新型コロナウイルス等の影響を受け、地域イベントの賑わいが衰退している。
- ・継続的な交流人口・関係人口を生む仕組みが構築されていない。

<総合的な取組内容>

地域活性化・持続可能なまちづくりを目指した取組



指導者研修会

スポーツ指導者の養成 競技力向上

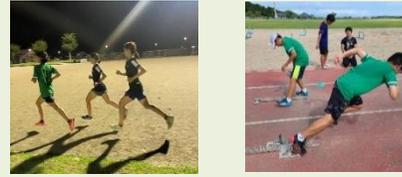
青学メソッドを盛込んだ、指導者育成研修会（クラブコーチ育成カリキュラム）を行うことで、スポーツを支える人材・指導者が育ち、持続可能なスポーツ環境の構築、本市の競技水準の向上が期待できる。



歴史×スポーツ

スポーツ振興 健康増進 交流人口の拡大

城下町という地域資源を活用し、萩市ならではの特色のあるイベントを青山学院陸上部選手等と協力して開催することで、歴史とスポーツを融合させたまちの賑わいの創出が期待できる。併せて、交流人口・関係人口の拡大が見込まれる。



絆ランニングクラブ萩

市民が一体となったコミュニティの創出

地域の子どもたちは地域で育てるという意識の下で、青山学院大学陸上部が監修する「絆ランニングクラブ萩」を創設。小学生から社会人までの地域コミュニティの創出に繋がり、世代間交流が図られる。



【問合せ先・電話番号】

萩市教育委員会事務局 スポーツ振興課
0838-25-7311

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

「ヒト、モノ、健康」を活かしてスポーツで地域振興！！

1. 「瀬戸内しまなみ海道」を活用した、サイクリング・ウォーキング人口を増やす
2. 今治市スポーツパークを中心とした365日の賑わい創出 利用者R4 95,191人→R7 164,000人

<PRポイント>

1. [空、海、島、船を楽しむしまなみ海道]

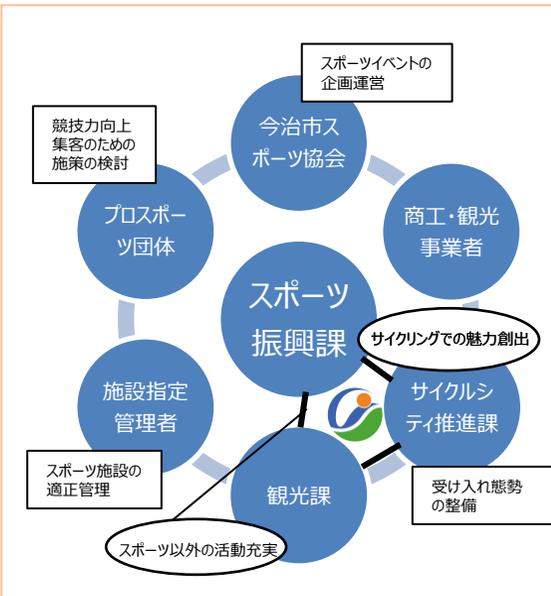
ナショナルサイクルルートの一つで、国内外から多くのサイクリストが訪問している！！

2. [企業と連携してにぎわい創出！今治市スポーツパーク]

人工芝サッカー場、国際公認コートである人工クレイコート16面(うち4面は屋根付き)を整備
近隣には大型ショッピングモールがある。FC今治のホームスタジアムである里山スタジアム、夢スタジアムが隣接している。



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



<概要> 計画期間：～令和10年3月31日

<総合的な取組内容>

しまなみ海道おもてなしプロジェクト

現状：「サイクリストの聖地」として国内外からサイクリストが訪れる

課題：休憩、メンテナンス、案内標識
宿泊等の整備と充実

内容

1. サイクリング・ウォーキング目的地の整備
2. 外国語対応の標識・看板の設置



スポーツパーク賑わい創出プロジェクト

現状：FC今治の活躍でプロスポーツを直接見て触れて楽しむ文化が根付き始めた

課題：施設の再整備
公共交通機関の利便性の向上
FC今治以外のコンテンツの提供

内容

1. バス停留所の乗り入れ誘致
2. 軽スポーツ、生涯スポーツ、eスポーツ招致
3. スポーツイベントの拠点化



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：今治市総合政策部
交流振興局スポーツ振興課
- 地方スポーツ推進計画：今治市スポーツ振興計画
- 地方版総合戦略：今治市総合計画
- 地域スポーツコミッション：なし

【問合せ先・電話番号】

今治市総合政策部交流振興局スポーツ振興課
スポーツ振興係
☎0898-36-1604

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

- ① カヌー競技振興×学校部活動の地域連携で新たな事業モデルを構築
- ② ガイドツアー×イベント（アウトター/インナー）×スポーツ/体験型合宿等の包括事業化
- ③ 湖の駅とのシナジー+αでスポーツウェルネス事業を立ち上げ
- ④ ITフル活用のビジネスインフラを地域SC内に構築、その後、オープン化（地域への開放）を推進

<PRポイント>



さめうら湖を中心としたスポーツと観光の拠点。「さめうらカヌーテラス」「さめうら荘レイクサイドホテル」「さめうらテントパーク」の3エリアから構成される。ITフル活用のビジネスインフラを推進力に、多様な人材交流、アウトター/インナー双方の健康増進とリフレッシュ、食/宿を包含した楽しめるエリアとして湖の駅の価値を確立させる。

<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

- ◆ 一社 土佐町SCの経営基盤/運営体制が脆弱 ⇒ 本PJを持続的に推進/発展させる組織として強化が必要
- ◆ 人材確保難 ⇒ IT活用/多様な働き方の実現により、効率的に高い付加価値を提供できるビジネスインフラの構築が必要

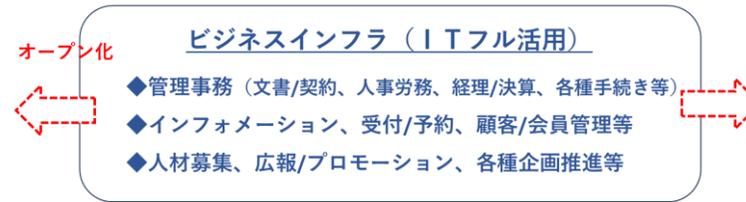
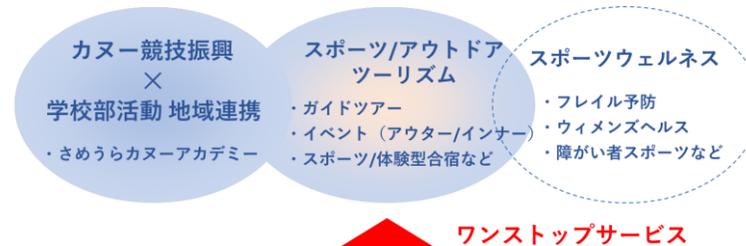
<総合的な取組内容>



地域のカヌークラブ「さめうらカヌーアカデミー」が学校部活動と連携、新たな事業モデルでカヌーの適地としてカヌー人口の増加/定着化を図る



「湖の駅」3エリアの施設とITフル活用で構築したビジネスインフラでスポーツ/アウトドアツーリズムの包括事業化およびスポーツウェルネス事業の立ち上げを実現



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：土佐町教育委員会
- 地方スポーツ推進計画：なし
- 地方版総合戦略：第2期土佐町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：一般社団法人土佐町スポーツコミッション

【問合せ先・電話番号】
高知県土佐町企画推進課
TEL0887-82-2450

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病气予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

1 ホッケー競技を核に、「ひと」と「ひと」、「まち」と「ひと」をつなぎ、地域交流の促進や地域住民の心と体の健康増進とコミュニティ強化につなげる。

2 大崎自然公園交流広場を拠点としたホッケーイベントを実施し地域活性化を促進する。

具体目標

- 1** ホッケーイベントの開催件数 ▶ R5…10件、R6…12件、R7…14件
- 2** スポーツ大会、合宿等の誘致件数 ▶ R5…10件、R6…12件、R7…14件

<PRポイント>

- 県内で唯一の公認ホッケー場を整備
- 公認ホッケー場周辺には、海水浴場やオートキャンプ場があり合宿地として好立地！
- 新しい形のホッケーを開発…いつでも、どこでも、だれにでもホッケー競技を体験できる機会の創出



<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

現状課題

高齢化が進み、医療費も高い水準で推移しており、いつまでも健康で生活できる健康寿命に関する施策が課題である。

ホッケー競技（合宿、大会）の誘致については、関係団体との連携不足により、積極的な展開ができていないため、観光消費を取り込めていない。

“ホッケーのまち川棚町”を掲げているが、広く地域住民に浸透していない。

課題解決の「カギ」The key

R6インターハイの成功

令和6年度全国高等学校総合体育大会ホッケー競技会を町全体で盛り上げ、大会の成功と大会後のレガシーを見据えた取組を実施



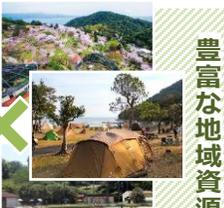
大会を機に「ホッケーのまち川棚」を定着

地域資源を活用したスポーツ合宿の推進

施設のリニューアルを契機に、スポーツ合宿等の誘致を推進



【リニューアル予定グラウンド】



豊富な地域資源

ホッケー+αで合宿地として選ばれる場所へ

新しい形のホッケーを開発

「いつでも、どこでも、だれにでも」をコンセプトにした新たなホッケープログラムを開発



【ウォーキングホッケー】「歩く」を基本に子どもから大人まで一緒になって楽しむルールでプレー



【グラウンドゴルフxホッケー】ホッケースティックとボールを使ってグラウンドゴルフをプレー

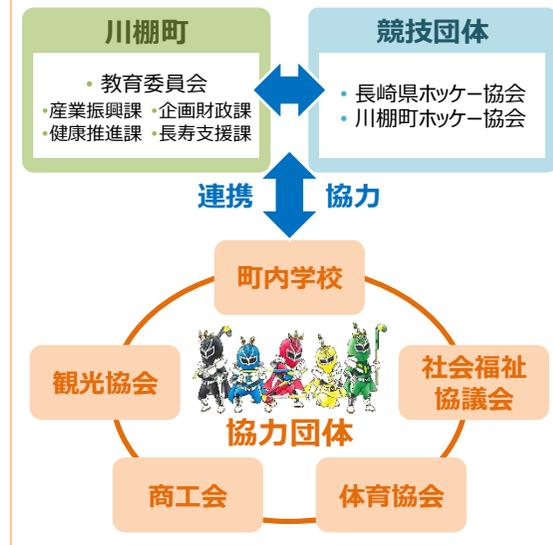
地域住民の健康増進とコミュニティ強化につなげる



交流人口の拡大や賑わいを創出し、地域が「かわつたな」を実感できる町へ

【フォローアップ欄】令和6年度以降における計画の進捗状況

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

スポーツ部局の所属先	川棚町教育委員会
地方スポーツ推進計画	なし
地方版総合戦略	第2期川棚町まち・ひと・しごと創生総合戦略
地域スポーツコミッション	なし

【問合せ先・電話番号】

川棚町教育委員会 社会教育係
0956-82-2064

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

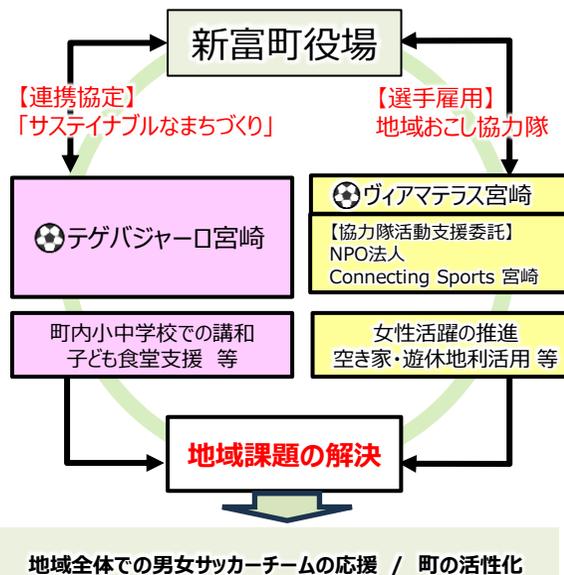
年齢・性別・LGBTQに関わらず全ての人が「サッカーの応援」で一つになり、まちの一体感を醸成する
 宮崎県内唯一のプロチームの活動を通じて「お金を払ったスポーツ観戦」という文化を形成する
 サッカーを通じた移住者や交流人口の拡大、町内外の人々のつながりによる「まちの活性化」を図る
 【具体的な目標】◆ユニリーバスタジアム新富・新富フットボールセンター利用/来場者者数→(R5) 90,000人

<PRポイント>

【サッカーを通じたホームタウン活動による町の課題解決】

- ⚽ 地域おこし協力隊活動を通じ、遊休地をグラウンドに協働して改修
- ⚽ 「サステイナブルなまちづくり協定」など企業連携を活かした取組の拡充
- ⚽ 子ども食堂の支援、町内小中学校でのプロサッカー選手の講和によるキャリア支援

<継続的な取組を確保できる体制(図)>



<概要> 計画期間：～令和7年 3月 31日

<現状・課題>

- ① 宮崎県プロスポーツに触れる機会がキャンプでしかなく、お金を払って観るスポーツ文化が薄い
- ② 年齢や性別、移住者などバックグラウンドを問わず一体となり、まちを盛り上げるきっかけが必要
- ③ 男女サッカーチームとのホームタウン活動や企業との連携協定により、町民がスポーツに触れる機会が日常で増えている

<総合的な取組内容>

4つの「推進」によるサッカーを通じた地域の活性化（～これまで）

① 連携協定の推進



② 地域の食育推進



③ 遊休地地利活用推進



④ 合宿誘致の促進



関係人口拡大

まちの一体感

(これからの未来～)

- ⚽ 宮崎県唯一のプロチーム (J3)
 - 全国からサポーターの動員
 - 交流人口の拡大
- ⚽ 地域おこし協力隊と目指す「.WEリーグ」
 - R5「なでしこリーグ2部」優勝
 - サッカーを通じた女性活躍の象徴へ

まちの活性化へ

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：新富町役場総合政策課
- 地方スポーツ推進計画：なし
- 地方版総合戦略：第2期新富町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：NPO法人 Connecting Sports 宮崎

【問合せ先・電話番号】

新富町役場総合政策課
 TEL 0983-32-1222

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かして楽しむ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

- ① 町民のスポーツ機会の拡大及び健康増進の推進による「心も体も健康なまち」へ
- ② 飲食・ツーリズム・施設整備・団体間連携によるおもてなし向上を行いプロのセカンドホームタウンへ
- ③ スポーツ観光資源を活用した大会・合宿の誘致による交流人口の増加

<PRポイント>

- ① **<スポーツが人を結ぶ>**
スポーツ合宿や交流機会を通じてアスリートから町民までが一体となり**新たな交流やスポーツ機会の拡大、健康増進を図り、お互いが応援団**に。
- ② **<スポーツが夢を結ぶ>**
アスリートの夢（目標）、アスリートとの交流で生まれる子供たちの夢、健康で生き生きとした生活を送る体作りなど**スポーツ機会・環境を整え夢を応援**。
- ③ **<スポーツが「おおさき」を結ぶ>**
豊富な資源を活用したツーリズムの推進、飲食をはじめとするおもてなし向上、団体の垣根を超えた事業展開で**交流人口の増と経済循環を図る**。

<概要> 計画期間：～令和13年3月31日

<現状・課題>

- ① 人口減少・少子高齢化による生産年齢人口の減少に伴う医療費の財政圧迫を防ぐため、更なる健康増進事業の展開
- ② 合宿者など交流人口は増加傾向にあるものの地域に経済循環が生まれるようなメニューが少ない
- ③ 宿泊施設が少ないことや、既存の体育施設の老朽化や有効活用が不十分

<総合的な取組内容>

<インナー事業>



健康増進教室

既存事業との連携や世代間交流等幅広い健康増進機会の創出

スポーツイベントの開催

各世代それぞれに合うスポーツイベントの開催でスポーツ機会拡大

おもてなしの推進

地域のステークホルダーと専門部会を設置し地域一体となったおもてなしの推進

<アウター事業>



合宿・大会誘致

合宿や大会を誘致し交流人口増・地域経済循環を促進

ツーリズムの推進

地域資源を生かしたツーリズムプログラムを開発

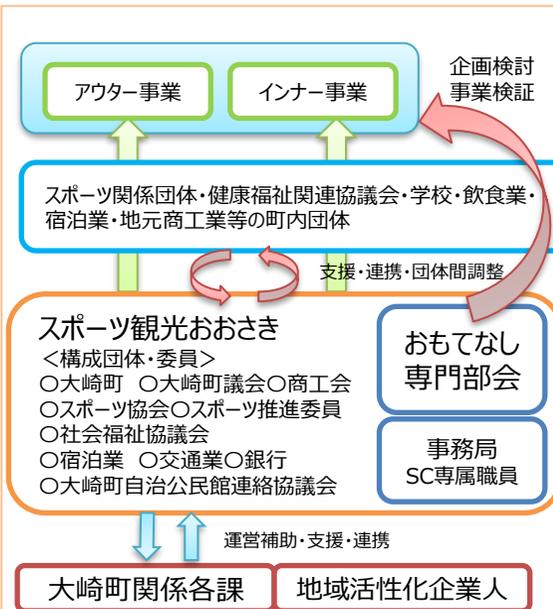
スポーツ施設等整備検討

町内のスポーツ施設等の活用及び整備を検討し魅力的な合宿地へ

連携・支援

地域一体となった健増康進・交流人口増・地域経済の循環を促す仕組みづくりを形成

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：大崎町商工観光課
- 地方スポーツ推進計画：なし
- 地方版総合戦略：第2期大崎町総合戦略
- 地域スポーツコミッション：スポーツ観光おおさき

【問合せ先・電話番号】

大崎町商工観光課広報観光係

TEL：099-476-1111

スポーツツーリズムとスポーツマッチングで活力溢れるまちづくりプロジェクト

<目標分野> ※該当するものに全て

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

温暖で花粉の飛散が無い気候と充実したスポーツ施設を生かしたスポーツツーリズムコンテンツの創出と充実した内容の提供により、交流人口・関係人口の拡大に繋げる。また、幼児から高齢者のだれもが気軽に参加できる大会や、様々なスポーツを体験できるスポーツフェスティバルを毎年開催し、市民のスポーツへの意識と意欲の向上を目指す。更には、島の食や物産などを提供するブースも設けるなど趣向を凝らし、石垣島のファンを増やすイベントとする。

○スポーツツーリズム・コンテンツ創出数：3増加（令和7年度末までに） ○成人の週1回以上のスポーツ実施率：45%（令和元年度）→ 65%（令和11年度）

<PRポイント>

①スポーツツーリズムで地域活性化

温暖で花粉の飛散が無い気候や恵まれた地域資源を戦略的に活用した様々なスポーツツーリズムや継続的な入客が望めるコンテンツを創出。

②スポーツフェスティバルでスポーツに出会い健康づくり

スポーツ関連施設が集約された石垣市中央運動公園を最大限に活用し、トップアスリートのパフォーマンスを間近で体感し交流できるイベントの実施や、ニュースポーツ、パラスポーツ等の体験ブースを施設の各所に設置するなど、だれもが気軽に参加できるフェスティバルを開催。また、昔から開催されている八重山の産業まつりとコラボレーションして開催することにより、これまでスポーツに関心の無かった人々にもスポーツに触れやすい環境を提供する。更には、特産品の魅力を地域内外へ広くアピールすることで地域外からの誘客も見込める。こうした取り組みにより、販売促進や出店業者の商品開発力、競争力、情報発信力を促進し、更なる地域産業の活性化にも繋げる。

<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

- ・恵まれた地域資源を活かしたスポーツツーリズムが少ないため、コンテンツ創出が急務である。
- ・スポーツ習慣がある人、ない人がはっきりしている。多くの市民にスポーツを推進する工夫が必要。

<総合的な取組内容>

■石垣島スポーツコミッション

令和5年3月に「石垣島スポーツコミッション」設立 令和5年度より本格始動。

■スポーツツーリズムコンテンツの創出

国内有数の観光資源や独自の文化を有しているにも関わらず、これまでスポーツとそれらを掛け合わせたコンテンツが不足していた。今年度は、世界中に愛好者がおり、沖縄が発祥の地である「空手」を題材として、本市で活動している空手道場の保存・継承・発展を図ると同時に、インバウンド拡大に繋げることを目的に「空手ツーリズム」の創出に取り組む。

■スポーツマッチングの場を創出

新体力測定や運動機能測定、競技スポーツからニュースポーツ、パラスポーツなど個人の体力や年齢にあったスポーツに出会えるスポーツマッチングの場の提供をめざします。マッチング後は、石垣島スポーツコミッションが競技団体との懸け橋となり、継続して競技が行えるようサポートします。



<ぶざま岳から望む川平湾>

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

石垣島スポーツコミッション

事務局
石垣市
スポーツ交流課

- ・商工会
- ・観光交流協会
- ・八重山デジタルビューロー

- ・石垣市体育協会
- ・八重山郡スポーツ協会
- ・スポーツ推進委員
- ・総合型地域スポーツクラブ
- ・障がい者文化・スポーツ振興会

※官民一体となり、スポーツと地域資源を掛け合わせた新たな取り組みを創出。

財源

- ・地方スポーツ振興費補助金
- ・石垣市まちづくり支援寄附金（ふるさと納税）

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：企画部スポーツ交流課
- 地方スポーツ推進計画：石垣市スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：石垣市地方創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：石垣島スポーツコミッション

【問合せ先・電話番号】

石垣市企画部スポーツ交流課

TEL 0980-88-6666

MAIL supokou@city.Ishigaki.okinawa.jp